



日本共産党市会議員 かたやなぎ 進

片柳すすむ 市政報告

発行 日本共産党 川崎市議会議員団
川崎区宮本町1番地 第2市庁舎7階
TEL 200-3360 FAX 245-4140
その他の連絡先 TEL 246-6823

横浜市の倍・2042億円もある減債基金に、今後10年でさらに900億円積み増し?! 川崎市のゆたかな財政を、高齢者や子育て施策などくらし・福祉に

▼お知らせ：今月号は諸般の事情により片面印刷版でお届けいたします。どうぞご了承下さい。

今月号の内容

- ▼1面
- ①代表質問—豊かな財政をくらし福祉に
- ②災害に備え、学校トイレの対策を
- ③川崎小で「総合防災訓練」
- ④コラム・「今こそ『憲法くん』の出番」

9月20日・22日に開催された決算審査特別委員会（文教分科会）で片柳進市議は①ヘイトスピーチへの対応②LGBT施策の推進③こども文化センターへの冷暖房設置④学校トイレの洋式化⑤教育文化会館の後継施設のあり方⑥大学奨学金の拡充—について質問しました。その内容などを紹介いたします。

ゆたかな財政をくらし・福祉に —市長の政治姿勢を批判

9月12日の川崎市議会で日本共産党が代表質問を行いました。

核兵器禁止条約への参加を拒否している日本政府に対して、署名をするよう市長が要請すべき、と質問しましたが「動向を注視する」と述べるだけでした。

また市長が減債基金からの53億円の借入（一方で81億円を積み増し）を理由に「厳しい財政状況」と強調していることを批判。同基金残高は2042億円に達し、人口規模が川崎市の2・6倍の横浜市と比べ約2倍になっていると指摘しました。

共産党市議団は「今後10年間、減債基金への積み増しをしなくても、市長が答えたように『10年後の実質公債費比率は13%』で問題

はありません。基金の積立予定額は10年で900億円、毎年90億円が市民のくらしに必要な施策に使えます。市の豊かな財政を生かし、高齢者や障がい者、地元建設業など中小企業、子育て支援などくらし・福祉施策の拡充を」と求めました。

災害に備え、学校・体育館に 多目的トイレ・洋式トイレを

決算審査特別委員会で片柳市議は、学校トイレの洋式化や多目的トイレの設置を求めて質問しました。市の学校トイレ洋式化率は小学校60%、中学校54%。全面的に改修すべきと共産党市議団は訴えてきました。

体育館は、災害時には地域住民の避難所となります。片柳市議は内閣府のガイドラインが「高齢者や障害者にとって和式便器の使用は極度に困難。トイレの不足により『飲食を控えて体調を崩す』などの既設トイレの洋式便器化を」としていることを紹介。避難所となる学校体育館のうち、近くに多目的トイレがない学校が60校もあることを明らかにし、洋式化と多目的トイレの設置を計画を建て進めるよう求めました。

次に片柳市議は、教室近くのトイレの洋式化も促進すべき、と質問。教育委員会は「計画通りに進めている」「可能な限り設置に務めている」と答えました。片柳市議は「学校のトイレは子どもたちの生活の場であり、地域住民の災害時の命綱ともなりうる。計画を持って洋式化・多目的トイレの設置を」と強調しました。

川崎小で「総合防災訓練」

9月3日川崎小学校で「川崎区総合防災訓練」が開催されました。



ホースキットの説明を受ける参加者

体育館で行われた『体感型防災アトラクション』は親子連れなどで大賑わい。直径40mmの消火ホースを消火栓に直接接続して使用する「消火ホースキット」の体験（写真）などにも多くの方が参加していました。こうした災害時の備えを体験することは重要です。阪神淡路・東日本など震災ボランティアの経験をいかし、引き続き災害対策に取り組んでまいります。

今こそ「憲法くん」の出番

9月11日、私が所長代理をつとめる「くらしの相談センターセミナー」を開催（川崎市が後援）しました。

宮原春夫所長が成年後見制度について講演し、コメディアン松元ヒロさんが特別出演。舞台上の演出はほほナシ。ヒロさんの話芸の世界に引き込まれました。ヒロさんが、日本国憲法



No. 28 片柳すすむ 日進月歩

になりきる「憲法くん」の場面、戦争の焼け跡の中にたたずむ少女の姿が目につかびました。「二度と戦争を繰り返さない誓いから、私、日本国憲法が生まれました」このことを今こそ多くの人に知ってもらいたいです。

参加者から「憲法っていいことが書いてあったのね!」との声。「戦争しない、紛争は話し合いで解決する」「教育は平等、すべての人の生存権を保障する」—この日本国憲法の精神を、国政にも市会にも生かそうとあらためて決意しました。

